

令和 2 年度 第 2 回
大阪府立豊中高等学校 学校運営協議会 議事録

日時 令和 2 年 11 月 6 日（金）17 時 00 分～18 時 00 分
出席者 協議会委員 山崎 彰・三木 俊博・立花 真一・宮坂 政宏・尾崎 理人・田村 知子
校長 平野 裕一
事務局 藤縄 真敬・松本 恵美子・上林 卓也・安福 一貴・城台 祐樹

次第

1. 校長挨拶

コロナ禍で 4 月・5 月の休業はあったが、文化祭や校内大会の拡大版（体育大会が実施できなかった分）など、なんとかいくつかの行事が実施できた。

2. 会長挨拶

コロナの影響でいろんなことが計画通りにいかない。生徒は不安を抱えている。入試の準備にも不安がある。こんな時だからこそ、柔軟な対応が学校には求められる。

3. 協議・報告

(1) 学校経営計画

(校長)

①進路を切り拓く学力の育成

- ・キャリア教育 進路講演会 13 名の講師（同窓生中心）のレクチャーを対面で実施。
- ・オープンキャンパスはほとんどオンライン。
- ・研究室訪問。ほとんどできていない。ただ、GLHS 事業の大阪大学ツアーは今週末に実施予定
- ・志学のボランティア活動は今年は受け入ればなかった。そこで修学旅行を利用してプログラムを組み込んだ。アイヌの伝統工芸体験など。
(SSH・WWL について)
- ・全国大会もほとんどオンライン。JAICA 作文結果待ち。科学の甲子園については、今年が入賞できず。
- ・国内理科研修 （地学）名古屋へ鳴き砂の研究者の方を訪問。11 月は琵琶湖へ。

②国際舞台で活用する人材育成

- ・海外 シンガポールカトリックハイスクール訪問中止→国際大会のエントリーは来ているが、高校入試の時期なので教員は付き添えない。生徒だけで参加できる方法を模索。
- ・能勢分校の農場等の教育資源を活用する取り組みはコロナの影響で実施できず。

③教員の「働き方改革」に向けた取り組み（教員の資質向上および働き方改革）

- ・授業アンケート 平均値：3.21→3.29 に上昇。ここ 5 年、年々平均値が上がっている。
- ・働き方改革 800 時間以上超過勤務 4 名以下。現在半年で 400 時間以上が 3 名

（教頭）働き方改革について

分散登校が始まってから、7 月 8 月に時間外勤務が増えた。夏休みの短縮も影響。9 月以降は例年通り。年代層別勤務時間 2～3 0 代が多い。部活動の付き添いなど。

ストレスチェックにて健康リスクを算出した結果、昨年度は少し上昇。今年度はまだ結果待ち。昨年は、作業環境や身体の負担の項目の結果が悪かったが、エアコン等の設置が不十分であったことが理由として考えられる。今年度はエアコンを設置したので数値が下がることを期待している。対人関係は良好。Work Engagement の維持をめざす。若い年齢層へのフォローするためにコミュニケーションを増やし活気のある職場に。職員室に集まれるように。

（校長）進路希望調査 希望は大きな変化なし

（委員）質問。生徒たちが主体的に学ぶというところ。進路について「考える機会がある」

について機械の有無だけでなく、生徒が目的に向かって学んでいるかを測れているのか。また、闇雲にいろんな活動をしてしまう生徒がいると思うが、そういった生徒に学ぶ目的や量だけではなく、学ぶ方法を教えているのか。また、アンケート等から得られたデータは分析することが大切。そのあたりはどうか。

（校長）

- ・機会の有無しか質問項目に限りがある。プログラムによってはできている。これから意識したい。
- ・身近な存在である先輩や関係者の生き方を聞く機会を設けて生徒がこういうモデルでやっていけばいいというのを示すプログラムをこれからもしていきたい。
- ・企画委員会等でデータベースで分析していく習慣をつけたい。

（委員）質問。SSH の海外で使おうとしていた予算は？単年度予算で返さなくてはならないのか、他に使えるのか、繰り越せるのか。

（校長）単年度予算。旅費は国内の研修に置き換えたり、消耗品で使用する予定。

（委員）コロナ禍でさまざまな試み（ICT など）の成果があったが、課題はあるか。もし課題が出てきているのならどういうふうに把握して、どういうふうに改善していくつもりか。

（校長）大きな戸惑いがあった。オンラインでの学習課題の枠組みづくりを頑張ったが、課題としては、うまく使えない生徒がいたり、各家庭が課題の印刷代を負担することになった。現在はグーグルクラスルームの準備を進め、一部利用中。もしまた休校になっても対応できる準備ができている。年度末に、オンラインのことや行事のことについてアンケートを取りたい。

(心のケアについて) コロナの感染に怯えて休む生徒はいない。

(学習関係) 3年生について。例年は5月～夏までクラブ活動。今年度は比較的早い時期に部活動を引退せざるを得なかった生徒も多く、早く受験生を自覚したという意見もあるが、鵜呑みにはしていない。全体で学習をできなかったという点からみても、影響が出ている可能性がある。ただ、進路希望の実態においては変化は見られない。

(委員) コロナ禍で1年生が一番心配。フォローをお願いしたい。

働き方改革について、時短だけでなく中身の充実を。先生は一人で色んな業務をこなしている。専門的なスキルを持った人材を雇い、負担を軽減できないか。地域連携は、個人的にも協力できるところはさせてもらいたい。

(校長) 1年生について、本来なら遠足→体育大会の流れで学校に慣れていくが、今年度は1学期での実施ができなかった。ただ、4月の末に担任に生徒面談をしてもらったのは良かった。確かに1学期は生徒は戸惑いがありおとなしかった。ただ、9月に入場制限はあったものの文化祭を普段の規模で実施できたのは大きかった。その後、芸術鑑賞や11月に遠足を設定し、今は普通通りの一年のようになっている。

働き方改革について、文科省は「チーム学校」という言葉を掲げている。専門的なスキルを持った人を雇うことについて、本校はスクールカウンセラーや付き添い業務ができる外部部活動指導員の導入が進んでいる。今後はより発達させて先生の業務を軽減させたい。地域連携について、今までは弱い部分もあった。包括協定で変化していくと考える。志学、課題研究を活用していきたい。

(会長) コロナ関係のことを学校評価に入れてはどうか。できなかったことだけでなく、できたことを。

(委員) 中学もコロナ休校後に残業量が膨らんだ。授業時数もなんとかクリアできそう。高校は？

(校長) オンライン課題の達成度が高かったので、夏休み・冬休み等の短縮で補えた。

④教育研究集会について

(指導教諭) 教育研究会について来年度の7月に公開授業大会を実施予定。実行チームを結成。「豊高型アクティブラーニング」を吟味し、生徒の自律を目標に掲げ進んでいきたい。高校ではあまり実践例がないが小中学校では実践例が多いと聞いている。アドバイスをいただければ。

(委員) (中学校では) グループ学習が基本。お互いを刺激しあえるか。公開授業を実施して、お互いに批評したり、大学の先生を招いたりしている。5教科プラスαくらいの規模で実施。班でのアイデアを集めてさらにクラスで共有するといった形。

普段の実践を示す。公開授業用に作り込むのは良くない。

(2) 教科書選定について

→異議なし

(3) 100 周年記念事業について

(教頭) 食堂を改装し、「豊陵ホール」となった。

たくさんの教育活動の整備が豊陵会員を中心に進んだ。

(委員) 基金を節約して、できる限り生徒のために使えるように。海外研修基金設立など。

(会長) コロナ禍で明日のことも見えにくい状況。生徒のためにできる限り頑張っていきたいと思います。

次回 2月12日予定